

抄出本「現存和歌六帖」（校本と索引）

福田 秀 一

要旨 建長年間に真観もしくは真観・家良が撰んだと推定される「現存和歌六帖」（略称「現存六帖」）は、いわゆる反御子左派の撰集の一つとしても、また鎌倉中期の類題集としても、いくつかの点で注意してよいものであるが、従来一般に知られていたのは、類従本をはじめとして、第六帖のみの零本であった。

しかるに、先般本位田重美氏が報告され、『国書総目録』にも記すように、第一帖から第六帖までの歌を計三百余首抄出した形の伝本がいくつかある。『国書総目録』が「抄出本」とも「大永本」とも記しているものであるが、奥書から見るとその抄出は大永年間に三条西公条の手になるものと思われ、類従本系統に欠く第五帖までの片鱗を知り得る点で注意すべきものである。

そこで今回は、抄出本の一つ神宮文庫蔵本を底本とし、直接間接調査し得た他の五本による校訂・校合を加えて、抄出本を校本の形で示した上、索引と略解説を付した。

鎌倉中期反御子左派の私撰集である「現存六帖」については、『群書解題第七』および拙著『中世和歌史の研究』(二〇二頁・二五頁注五)でも触れたが、類従本その他多くの伝本は、一見して明らかなように第六帖のみの零本である。そしてそれと別に、第一帖から第六帖までに亘って計三百余首を抄出した形の本(『国書総目録』に言う「抄出本」または「大永本」)がいくつか伝存し、それによって現在散佚した第五帖までの五巻の成立や内容がある程度推測し得ることも右の両文献に一言したが、『群書解題』の刊行と前後して本位田重美氏(『現存和歌六帖補考』、『日本文芸研究』第十三巻第四号、昭三六・一二)は、筆者からの報告を契機に、いわゆる抄出本の一本である神宮文庫本を紹介され、「現存六帖」の成立・増補過程について、氏の前稿(『現存六帖考』、『国語国文』昭三四・八)を補正された。本位田氏のこの二つの論放は、現在のところこの集を正面から取上げた唯一の文献で、その推論(特に「補考」)は甚だ手堅いものであるが、肝心の「抄出本」の全貌については、神宮文庫本その他について通報した筆者の立場を顧慮されてか、公開しておられない。

筆者としては年来そのことを気にしていたが、神宮文庫本も誤写の多い近世写本でもあり、もつとよい本はないものかと伝本の探索を心がけていた。その結果、神宮文庫本に完全に代り得る本はまだ管見に入らないが、いくつかの伝本を知り、それによって神宮文庫本の誤写がある程度補訂することもできるように思うので、この機会に「抄出本」の本文を校本の形で提供して大方の利用と検討に資したいと思う(二四頁追記参照)。

右に述べたような「現存和歌六帖」の「抄出本」として、今までに筆者が所在を知り得たのは、次の六本である。以下それらを列挙し、若干の書誌的事項を記しておく。

1 神宮文庫蔵本（図書番号六五）

この本については、本位田氏（前述「現存和歌六帖補考」）の報告があるので、その書誌の部分転載させて頂くと、次のようである。

神宮文庫本は、縦二七・五センチ横一九・七センチの美濃紙袋綴一冊。青表紙で、題簽の脱落したあとに「寛元和歌六帖」と朱書（福田注、「墨書」の誤植か）し、「寛元」の左傍に朱点を打って、右端に「現存」と（同注、朱で）記してある。初めの一枚は白紙で、裏に「林崎文庫」の朱印をおす（注、本文冒頭にも「林崎文庫」の二印あり）。墨付三〇丁（注、奥書を入れれば墨付三二丁）、初めに「寛元和歌六帖」と内題を記し、これも表紙同様のやり方で「現存」と改めてある。（第二帖以後は「寛元和歌六帖第二」のように記す。「現存」と改めてあるのは同様である。）本文は一面一〇行（第一丁裏は一二行）で、題と作者名を一行、歌を一行に記す。従って、一面にだいたい五首乃至六首の歌が収められていることになる。（中略）歌の中には、間々右肩に合点を施したものがあり、また朱で校合を加えたところも見える。

巻末に

右申出禁裏御本欲書写之処歌数多不違于書之仍加

一見難題之歌或有一興之歌駢其楚而已 于時

大永丁亥臘天十五一天兵乱豺狼当路閉

門抄之待泰平時節可清書者也

国 外 都 督 郎

という奥書があり、そのあとに

安永九庚子五月中旬一校了 勤思堂村井敬義藏

と朱書してある。なお、「国外都督郎」の左下寄りに長方形の朱印があり、枠の中に

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拝

の文字が刻されている。

「国外都督郎」は太宰帥・権帥の唐名で、当時の太宰権帥は、三条西実隆の子、公条であった。すなわちこの書は、大永七年十二月三条西公条が禁裏御本より抄出したものの転写本で、安永九年五月村井敬義が校合を加え、天明四年八月林崎文庫に奉納したものである。

以上が本位田氏の報告された書誌であるが、書写は江戸中期と見られる。各歌の下に朱の点があるが、朱校の覚えか。後述のような理由で今回底本としたが、朱校以前の書写には誤脱も多く、必ずしも善本ではない。なお、本書は国文学研究資料館で撮影済（フィルム番号言一六三三）である。

2 彰考館蔵本（巳部九番）

二七・三×一八・七種の美濃紙袋綴一冊本で、渋引（横縷）表紙左上に一八・七×三・一種の題簽を貼り、「寛元和歌六帖 全」と墨書。内題（端作）は「寛元和歌六帖」とあること、1の神宮文庫本と同様である。墨付二八丁、一面一二行、一首一行書。奥書は、神宮文庫本の初めの二行分を欠き、「大永丁亥」から始まって、「……者也／国外都督郎」とある。江戸後期写。墨・朱の校合を多数有するが、朱校は福田耕二郎氏の御教示によれば小山田与清の手になるという。第一丁表のみ、与清手沢本の多くと同じく句の左右に朱の波線を引く。第一丁表にはまた、「潜竜閣蔵書記」の印を捺す。本文は神宮文庫本と同系で、共通の親本から出ているかと思われるが、書写者の無知に基づくと思われる誤写が甚だ多いことは、校本を一見して明らかであろう。他本が有する合点も、この本は全く欠いている。なお、この本も資料館で撮影済で、フィルム（番号三七三、四、目録は誤って「新撰六帖題和歌」の項に入れているが、内外題の「寛元和歌六帖」で検索し得る）と閲覧用紙焼写真（C二二六八）とがある。

3 高松宮御蔵本

『高松宮旧有栖川御本マイクロフィルム目録』（宮内庁書陵部、昭四四）に「現存六帖抜書 江戸写 一（後略）」
 『御所蔵旧有栖川御本マイクロフィルム目録』（宮内庁書陵部、昭四四）に「現存六帖抜書 江戸写 一（後略）」と見えるもので、資料館で複写を許されて閲覧に供している紙焼写真本（C三三）によって調査し得た。それによれば、袋綴一冊本で網代に巴文様の表紙、左上に色紙題簽を貼り、「現存六帖抜書」と墨書。一面一〇行、一首二行書。巻頭一丁白紙で第二丁表から始まるが、内題及び第一番の歌を欠き、二番の作者名（大納言為家）から始まっている。以下帖ごとに丁を改め、墨付四九丁、末尾半丁もしくは一丁白紙。但し第四九丁は大永の奥書で、文面は1に同じ（配行は異なる）。冒頭一首を欠くのは惜しまれるが、かなり丁寧な書写で、誤脱の少い善本である。字体等からは、江戸中期の書写かと思われる。

4 ノートルダム清心女子大学図書館蔵黒川本（黒B一六七）

同大学図書館の『特殊文庫目録』に「現存六帖鈔一（六）一欠」江戸末写」と見えるもので、先年黒川本整理の折一見し、今回短時間で再調査した。二六・九×一九・一糶の楮紙袋綴一冊本で、表紙は鳥の子素紙に雲母で唐草を刷る。左上に内曇り題簽を貼り、「現存六帖鈔」と墨書（恐らく本文とは別筆）。前後遊紙なく、墨付三四丁、一面一〇行、一首一行書。目録には前述のように江戸末写とあるが、江戸後期写と言ってよいように思われる。本文と同筆の校異（墨書）が散見する。巻頭に黒川真頼（長方印と円印）・同真道（長方印）の蔵書印を捺す。末尾は1・3本とはほぼ同文（校異参照）の大永の「園外都督郎」（言オ）の次（言ウ）に、

右本 飛鳥井大納言殿以書清本書写号

とある。「清本」はあるいは「御本」の誤写かも知れない。なお、末尾の二丁は墨色・筆勢やや他と異なるが、恐らく紙質のせい、他の部分と別筆ではあるまい。

この本について注意すべきは、冒頭の乱丁である。すなわち、現在第一丁表は「現存和歌六帖第二」と端作りして一一番の題・作者・歌に始まるが、以下第三丁裏の末行に四一番の題（そほつ）と作者名（正三位知家）とを書いた後、第四丁表は二番の歌の作者へ戻ってその表裏で一〇番の歌までを記し、二行分余白を残して第五丁は四一番の歌から始まっている。つまり、現在の第四丁は元来は第一丁に置かれるべきもので、かつ3の高松宮本と同様に一番の歌だけを欠いているのであるが、乱丁によって一見第一帖分の全体を欠いているかに見える、そのために目録も前引のように記してしまったのであろう。

5 久曾神昇氏蔵「統現存六帖」付載本

先年久曾神氏の御好意で拝借し調査・撮影を許され、最近再度調査させて頂いたもので、「統現存六帖」は二九・六×二〇・九糶の美濃紙袋綴六冊本で、表紙は渋茶色重ね格子文様。題簽はなく、中央に「現存六帖春（一糶）」と打

付外題。但し内容は「統現存六帖」である。四季恋雜の計六冊で、第四冊のみ別筆、江戸後期写。各冊見返し裏に「下総崎房（上方右横書）／秋葉孫兵衛藏書」（六・二種方印）、各冊本文冒頭には、「秋葉／義之／印」（三・六種の方印）の印がある。第六冊は墨付六八丁であるが、その第三五丁から末尾まで三四丁が当面の「現存六帖」抄出本である。その部分は一面一〇行、一首二行書。全体に朱及び墨の見せ消ち訂正があり、末尾には1・3・4本とはば同文（特に4とは同文）の大永の奥書があって、その裏に4と同文の「右本 飛鳥井大納言……」の奥書を有する。

この本も、4の黒川本と全く同様な乱丁を有するが、更に注意すべきは、3・4の両本は配行から字形まできわめてよく一致し、共に同一本を影写もしくは臨写したのでない限り、どちらか一方が他を臨写もしくは影写したものと推測される。その上で両本を仔細に比較すると、二三番の歌の第四句のように4の黒川本の方が正しく書写している字形をこの本が誤っているケースが多く、また七番の歌の作者名のようにこの本には誤って書写したことに気づいての見せ消ち訂正が多い。これらの点から考えて、どちらかが他を写したとすればこの久曾神本が4の黒川本を写したのかとも思われるが、一方多くの見せ消ち訂正や二八八番の歌の虫食孔の様子などからは、その逆かとも思われる。

6 島原公民館蔵松平文庫本（三九一四）

昭和三十七年度科研費（総合研究）によって調査・撮影し、今回再調査したもので、二七・三〇・〇種の楮紙袋綴一冊本。表紙は濃縹地鳥の子で雷文つなぎに牡丹唐草押型文様、左上に小題簽を貼り、「現存六帖」と墨書。遊紙前後各一丁、墨付三三三丁、一面一〇行。一首一行書、江戸初中期写。奥書なし。

この本も、3・5本と同じく第一番の歌までを欠き（但し錯簡はない）、その部分すなわち本文冒頭に「。不足」（小丸は朱）と記している。歌の合点は朱。現存本の中では、3の高松宮本と並んで最も書写の古いものであるが、本文系統上は、4・5本の親本を転写したかと思わせる点が少くない。

以上略説したように、抄出本「現存六帖」の伝本としては現在のところ六本が知られ、3の高松宮本は写真で、他は一応直接、調査することを得た。それによれば、1の神宮文庫本と2の彰考館本はかなり近い関係にあり、これに対して他の四本が一群をなす。そして後者すなわち第二類の中でも、4の黒川本と5の久曾神氏本とが特に近いと見られ、現段階で仮に六本を分類すれば、

A 第一類 (一番の歌を有する)

1 神宮文庫本

2 彰考館本

B 第二類 (一番の歌を欠く)

I 3 高松宮本

4 黒川本

II 5 久曾神氏本

6 島原松平文庫本

錯簡あり

大永の奥書あり

大永の奥書なし

ということになろうか。

そこで今回抄出本を校本の形で示すに当っては、1の神宮文庫本を底本とした。全体としては第二類の諸本の方が書写態度もよく、誤脱も少いのであるが、第二類本の中には実見できないものや撮影できないものがある上に、惜し

いことに冒頭一首を欠いたり錯簡を有したりするからである。そして、1を底本とした上で、2、3、6の諸本によって校合し、その異同を左記の方針・基準に従って下段に注した。その方針・基準とは次の通りである。

一、本文は、原則として底本を忠実に翻刻した。即ち、漢字仮名の別や仮名遣・送仮名等の用字法は、特に断らぬ限り底本の通りである。但し、漢字や平仮名の字体は、翻刻の通例に従って現代の通用に統一した。

二、諸本による異同を注するに当っては、訓んで同音となる差違すなわち漢字仮名の別や仮名遣の相違等は、原則として無視した。但し、時に必要と考え注したものもある。

三、底本が各歌の下に有する朱の小丸印や彰考館本の第一丁表に見える朱の波線（前述）は、今回無視した。また、彰考館本が合点を欠くことは右に述べたので、個々の歌については注さなかった。

四、底本の誤脱と見られる部分は訂正したが、それについては必ず下段の校異に挙げ、何本によって（稀に私意もある）訂正したかを明らかにした。

五、校異もしくは右のような校訂を示すに当っては、本文の該当箇所*印を付し、下段にその箇所を掲出して、

縦線の下に校異や校訂状況を簡潔に記した。その際、諸本は彰本（彰考館本）・高本（高松宮本）・黒本（黒川本）・久本（久曾神本）・松本（島原松平文庫本）等の略称を用いた。また、底本以外の右に挙げた五本を一括する場合には、

は、「諸本」、第二類の四本もしくは第二類Ⅱの三本を一括する場合にはそれぞれB四本・BⅡ三本と称した。

六、校異・校訂を示すに当って、各本の「訂正」もしくは「朱訂」とは各本（底本を含む）における墨または朱による見せ消ち訂正もしくは補入の結果のこと、「朱校」とは朱筆による傍書（本文を見せ消ちとしていない）のことである。

七、校異・校訂を下段に示すに当っては、紙幅の都合上、一つの歌に対するものは（題・作者名を含む）○印で区切って

行追込みとし、次の歌の校異に移った時に改行した。

なお、本文と下段との対照の便宜上、本文の行間にしばしば空白を設けたところがあるが、特に断らぬ限り底本にはこれらの空白はない。

八、第六帖分に関しては類従本の該当歌とも校合することを考えてみたが、抄出本に見えて類従本に見えない歌もかなりあり（例えば『三・三六・三七』）、却って煩雑になるので、今回は作者名その他重要な点で異同ある時のみ注し、類従本や「新撰六帖」「夫木抄」等との全面的な校合は他日に譲った。

九、今回の校合に当り、3の高松宮本に関しては終始紙焼写真によって行なった。底本を含む他の諸本に関しては、それぞれ先年直接調査して校合しておいたものであるが、今回見直すに当っては、黒川本を除き、その折許されて撮影した写真によって大いに便益を受けた。改めて深謝する次第である。

終りに、底本の翻刻を許可された神宮文庫及びかつてあるいは最近改めて御蔵書の調査等を許された所蔵者各位と、第一節に述べたような経緯で筆者の公表をお待ち下さった本位田重美氏に、重ねて深謝申上げる。

(追記) 本稿校正中に佐藤恒雄氏から、熊本大学寄託北岡文庫本の中に本作の完本が伝存する旨通報を受けた。先年同大学国文学研究室で作成・公刊された『北岡文庫蔵書解説目録——細川幽斎関係文学書——』に「六帖抜萃現存新撰 大一冊」と見えるもので、同目録を手許に持っているながら、見落していたのである。詳しくは他日、佐藤氏より報告されると思う。

現存和歌六帖*

白馬の節会

〔前大納言為家〕

一 さかのやま雲ゐの春に引初てたえすもけふは渡る青馬*

前大納言為家

二* とやまなるそはの青しはかたよりて下風あらく夕立の空

雲

信実朝臣

三 とまりあらはうらのともふねこきよせよ雲のすゝけに日はくれにけり

しづく

前太政大臣

四 さゝのやの袖しくほとのかけもなしふるはなみたの山のしづくに

前大納言為家

五 谷川のいはもとしづくつく／＼と時をもわかすぬるゝ袖かな

かすみ

前大納言為家一オ

六 撃日指みかきののへの朝かすみつかへし道をなとへたつらむ

しも

衣笠前内大臣*

七 みさひぬるぬまの入江のあし原にゆふ霜はらひくゐななく也

現存一底本文「寛元一（彰本同シ）、朱訂ニヨリ改ム。ナホ、内題及ビ一ノ歌、B四本ナク、松本、コノ部分ニ「〇不足」トアリ。

前大納言為家一底本・彰本ナシ、夫木抄「民部卿為家」ニヨリ補フ。〇青一彰本本文「春」トシ、右ニ「青イ」ト注ス。

二一以下一〇マデ一丁、黒本・久本、四一ノ題（そほつ）作者ノ次ニ入ル。

よ一底本文「て」（彰本同シ）、朱校（よ一本「トアリ」）及ビB四本ニヨリ改ム。〇一高本本文「ゝ」（字形不分明）トシ、見セ消チニテ「す」トス。

ふる一彰本「降」。

撃日指一彰本右ニ「うちひさす」ト朱書。〇き一底本「さ」諸本ニヨリ改ム。彰本本文「た」トシ、きト朱訂。〇かすみ一久本「霞」ノ右ニ「カスミ」とあり。〇み一彰本本文ナク、右ニ「み敷」ト補訂。内一久本文「納」トシ、見セ消チニテ「内」トス。〇さ一彰本「た」。

ゆき

正三位知家

八 したをれのゐなのふしはらいやしきにまなくも雪の猶つもりつゝ

こほり

前太政大臣

九 あしかものかつくらはけにこす玉のくたけてこほる冬の池水

衣笠前内大臣

一〇 淀川の水わたにつもるふしのまも今朝こそふかくこほりしにけり」一ウ

現存和歌六帖第二

山

祝部成茂

二 またもこん春をそ契るわかさちやのちせの山の藤の下かけ

さる

源経雅朝臣

三 ゆふつくひかけろふみれはをかへなるしゐしはこめにましらなく也

とら

藤原隆祐

三三 みやこにはとらふすのへのあらはこそ捨るいのちを君にしらせめ*

くま

鷹司院按察

三四 しはを山しゐてはしらしあた人のこゝろのくまもすむといふ也

御製「二オ

のふ「彰本本文「れつ」トシ、右ニ「のふイ」ト朱訂。

は「彰本「ろ」（字形不明）。

水「高本「木」。○か「彰本本文ナク、右ニ「か」ト朱訂。○り「彰本本文「る」（字形不明）トシ、「り」ト朱訂。○れ「底本「り」、諸本ニヨリ改ム。○れ「底本ナシ、朱訂及ビ

現存「底本本文「寛元」（彰本同ジ）、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。○第二「彰本ナシ。

そ「底本・彰本「に」（「丹」ノ草体）、B四本ニヨリ改ム。○かけ「彰本「風」、高本「陰」。

み「彰本右ニ「いイ」ト朱校。

め「底本右ニ「んイ」ト朱校。高本右下ニ「むイ」、B II 三本右ニ「んイ」トアリ。

二五 あらくまもなればなれなんしはを山しはしにもあらずつらき君哉

むさゝひ

衣笠前内大臣

二六 おく山の梢につたふむさゝひのこゑもさむけく夜は更にけり

前大納言為家

二七 むさゝひのかた枝おち行深山木にあかつきふかくさゆる月かけ

源仲業

二八 さよふけてさひしくも有かたかまどのおのへの宮のむさゝひのこゑ

やま里

信実朝臣

二九 山里にたゝかりそめのすゝきかきふちする人もなき我身哉

やまひこ

同『ニウ

三〇 我身いまは思ひをふしの山ひこのこたへやするとためしをそ思ふ

たに*

衣笠前内大臣

三一 我せこかきつねのたにの郭公ふちのしふみにしはしやすらへ

そま*

前撰政左大臣

三二 いたつらに成ぬる身こそかなしけれ神のいつきの柚木ならねと

義淳法師

三三 ひたゝくみそまの宮木にうつすみのいていらぬよやわか君の御代

をのゝえ

前大納言為家

一五（あらくまもなればなれなんしはを山しはしにもあらずつらき君哉）久本・初メ書キ落シ、「御製」ノ上方ニ小丸ヲ書キ、細字補入。○は「底本本文」「よ」(影本同ジ)、朱校及ビB四本ニヨリ改ム。○し「高本ニ」(字形不分明)。○あり「影本ナシ」。

一七—B四本、右肩ニ「同」トアリ。○かけ—影本「かな」、高本「影」。

か—影本「か」ヲナゾリテ「か」ト朱訂。○と—影本本文「て」トシ、右ニ「と」ト傍書。○おのへの—影本本文「かの人」トシ、「人」ヲ「へ」と朱訂。

か—影本「か」ヲナゾリテ「か」ト朱訂。○き—底本・影本「け」、B四本ニヨリ改ム。

の—B四本「に」。○思—B四本「と」。

に—久本「に」ノ右ニ「に」トアリ。○は—影本本文「わ」トシ、右に「はい」ト朱校。

そ—影本「う」ヲナゾリテ「そ」ト朱訂。

てい—底本・影本「ては」、高本・黒本ニヨリ改ム。久本・松本「くい」。

三 雲ふかくいる山人も君か世にいくをのゝえかくちてかへらん

はら 鷹司院按察」三オ

三 行人も袖やぬるらん妻こふるをしかのはらの秋のしら露

承明門院小宰相

三 萩のえに木ゝのしつくも朝露もうつろひまかふ宮木のゝ原

前大納言為家

三* あたちのゝ原のくろつかをにこめて心にくくもよをすくさはや

をか 衣笠前内大臣

三 時しあれはすくものをかのはつわらひしたにもえても知る人はなし

もり 鷹司院按察

三 うらみしなかせのもりなる桜花さこそあたなる色にさくらめ

正三位知家」三ウ

三 いつかたにいくりのもりの春ならんあかれぬ藤の花を見すてゝ

前大納言為家

三* 淀川のむかひにみゆるみつのもりよそたのみしてこひわたる哉

やしろ 同

三 あきつ鳥くにつやしろのあきらけくまもりはくゝむ御代の久しき

かへー彰本本文「うつ」トシ、右ニ「かへ」ト朱訂。

ぬー彰本本文「ふ」トシ、右ニ「心イ」ト傍書、更ニ「心」ヲ見セ消チニシテ「ぬ」ト朱訂。門ー底本・彰本・B II 三本ナシ、高本ニヨリ補フ。○えー底本・彰本「ト」、B 四本ニヨリ改ム。○かふー久本「ふ」(ヤヤ不分明)ヲ見セ消チニテ「かふ」トス。

二七ーB 四本、右肩ニ「新撰六」トアリ。○やー彰本「つ」ヲ「や」ト朱訂。をー彰本本文「夜」トシ、見セ消チニテ「お」トス。○前ー彰本ナシ。○知るー彰本「智」。

もりー彰本ナシ。○鷹司院按察ー彰本ナシ。○花ー高本「こそ」。○くー彰本「へ」。黒本・久本、字形「へ」ニ近シ。

三一ー高本、右肩ニ「新撰六」、B II 三本、右肩ニ「新撰六」トアリ。○のー底本本文ナシ(彰本同シ)朱訂及ビB 四本ニヨリ補フ。○たー彰本本文「た」トシ「た」ト朱訂。

ゝー彰本「ら」。

三* むそちあまりくにみちたるもろ社よのためにこそ跡はたれけれ

むまや

正三位知家

三* まとろまでこよひもあけぬ旅の空むまやつまきの山の嵐に

為家

三* みちほそきせきのむまやのすゝか山ふりはへすくるともよはふなり四オ

なつのた

衣笠前内大臣

三* すみよしのうらのあみいとまなみきしたのさなへけふもとる也

為家

三* ほにいてぬなへたにまじるひえ草のひきすてられて世をやすきなん

同

三* たちさはくほなみつゝきにすゑみえて山のすそ田をくたる秋風

衣笠

三* 秋田もるひたのかけなは引はへてたゆます人をこふるころ哉

いなおほせ鳥

信実朝臣

三* あふ事はいなおほせとりにおほせてそ人のつらさのねをや鳴ける四ウ

三三一B四本、右肩ニ「同」トアリ。○こそ久本「こそ」ヤヤ不分明ノ右ニ「こそ」トアリ。○けし彰本本文ニナク、右ニ書キ添フ（恐ラク同筆）。高本「く」（字形不分明）

三四一B四本、右肩ニ「同」トアリ。○空し彰本本文「く」（具ノ草体）トシ、右傍ニ「そらイ」トアリ。○きし高本「み」。○山し彰本本文「心」トシ、「山」ト朱訂。

三五一B四本、右肩ニ「同」トアリ。○せし底本・彰本、B「を」四本ニヨリ改ム。

三七一B四本、右肩ニ「新才六」トアリ。○へし高本「つ」。○草し彰本「原」。高本「くさ」。○てし彰本「う」（字形不分明）。

たし底本字形ヤヤ不明確ニテ、右傍ニ「た」ト朱校。

衣笠一B四本「衣笠前内大臣」。○へし彰本本文「つ」トシ、「へ」ト朱訂。

そし彰本本文「う」トシ、「そ」ト朱訂。○やしB四本「も」。

そほつ

正三位知家

四 ややまたにたてるそほつのゆみかけはやといはねともしかそおとろ
く

春のゝ

為家

四* うはかれの草葉はしもの猶さえて春めきやらぬをのゝ古道
三* しも* かけのみなさゝふのふししはも春雨ふれはあさみとり也

かり

正三位知家

四 をしかふす夏のをふかみかり人のかさのはさきの草かくれつゝ

信実

望 みちおほきなすのみかりのやさけひにのかれぬこゑすそきこゆる

本ノママ

藤原為頼* 五才

哭 とかりするをのゝはき原露おちてふしのくしかのありかをそしる

正三位知家

哭 せこなはにひきこめらるゝしかはかりあはれ心のゆくかたそなき

わし

信実朝臣

哭* またはよもはねをならふる鳥もあらしうへみぬ鷺の空の通路

か―彰本「う」(字形不分明)トシ、「か」ト朱訂。○け―底本・彰本「て」、B 四本ニヨリ改ム。

四二―B 四本、右肩ニ「新撰六」トアリ。○も―彰本「り」。○も―彰本「し」。

人―彰本「ひと」。○か―久本「か」(字形不分明)ノ右ニ「か」トアリ。

信実―B 四本「信実朝臣」。○お―彰本「あ」。○なすのみかりの、底本文「なすのみかり」トシ(彰本同シ)、一なすのノ次ニ朱ニテ「ゝ」ヲ補フ。今、B 四本ニヨリ改ム。○こゑすそ―高本「声そ」。○本ノママ、一高本「本云やかて歟」。

為頼―B 四本、下ニ「木工助」ト小書。

は―彰本「ゆ」。

四八―B 四本、右肩ニ「新撰六」トアリ。○ら―底本文「り」(彰本同シ)、朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。

前大納言為家

四* ともすれはとやかふわしのおはきれてたち出かたき世をなけく哉

おほたか

四九一高本右肩ニ「同」、B II 三本右肩ニ「新撰六」トアリ。

吾 山かへるあかけのたかのでなれても心をかゝる君にもあるかな

な一彰本本文「く」トシ、「な」ト朱訂。○を
一B 四本「せ」、但シ黒本・久本、字形「を」
ニ近シ。

こたか』五ウ

五* あふことをいつとかまたんわかき路の山のくろつみつみしらせても

五一一B 四本、右肩ニ「新撰六」トアリ。○つ
一高本「川」トシ、右ニ「本定」トアリ。○せ
一底本・彰本ナシ、B 四本ニヨリ補フ。

はと

為家*

五* 入日さす山したかけのむらしははとなきかはす秋の夕くれ

為家一高本ナシ。○五二一B 四本、右肩ニ「同」
トアリ。

信実*

五* 茂りつゝこふかき山の夕くれはこもりこゑにそ鳩は鳴なる

信実一B II 三本「信実朝臣」。○五三一B 四
本、右肩ニ「同」トアリ。

うつら

衣笠前内大臣

五* 野分する野沢のちはら霜かれて鶉のねやもすみやわひぬる

五四一B 四本、右肩ニ「同」トアリ。○ぬ一彰
本「な」。

為家

おほたかゝり

五* 野をさむみたにもましろにふる雪のおちくさとめてあさるかり人

五五一B 四本、右肩ニ「同」トアリ。○雪一彰本
本文「雲」トシ、右ニ「雪イ」トアリ。○かり
人一B II 三本、本文「人」トシ、左傍ニ「より」
トアリ。恐ラク「よ」ハ「か」ノ誤写ニテ、
「かり」ト補フ意ナラン。高本「狩人」。
衛一B II 三本ナシ。

右兵衛督基氏」六オ

弄 こさか行つかれのたかのみねこえておちはきこゆるすゝの音かな

こたかゝり

藤原隆祐

弄 をのつから風しつかなる秋の日もちくさみたるゝこたかゝりかな

もゝしき

御製

弄 色も香もかさねてにはへ梅の花こゝのへになるやとのしるしに

少将内侍

弄 雲のうへのとよのあかりにたちいてゝみはしのめしに月をみし哉

為家

弄 つかれゆく老をもしらす百敷に身をせめしよの恋しきやなを

弄 あな恋し小やの戸いてしかたひさしひさしくみねは面かけそたつ』六ウ

くに

藤原隆祐

弄 その山はよそのけふりもたくふらん思ひをするか恋をしなのに

こほり

前大納言為家

弄 わかことはおくのこほりのえひすかけともかくにもひきちかへつ

ゝ

かきほ

同

弄 山もとのしつかかきほの村竹にもりて色つくはし紅葉かな

へ―底本「ふ」、高本ニヨリ改ム。彰本「ふ」、
B II 三本「え」。

内―久本「周」ヲ抹消シテ右ニ「内」トアリ。
○し―彰本「よし」。○哉―久本「哉」(字形
不分明)ノ右ニ「哉」トアリ。

小―彰本「に」。

よ―彰本「こ」。○恋―彰本「こゑ」。

こと―底本・彰本「も」、B 四本ニヨリ改ム。

しつか―B II 三本「くつる」。き―彰本「ぎ」。
○り―底本「か」、彰本「か」トモ「り」トモ
決メガタシ。底本朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。
○はし―B II 三本「かれ」。

う
為家』八ウ

△ いかにしてゑかふ入江のはなれうのしはしのほとも心やすめん

かめ
從三位行能

△ 潮間につりするあまのなかしなはくる夜はかめのうき木成けり

いを
為家

△* 夏川や瀬たえの水にすむ魚のせめくるほとをしる時もなし

こゐ
正三位知家

△ 世中はよとのいけすのつなきこゐ身を心にもまかせやはする

信実

△* こきまはるみなとの舟のこゐはせにひれのさはきの波たかくみゆ

ふな
衣笠前内大臣』九オ

△ いにしへはいともかしこしかたふなつみみやきなる中のたまつき

すゝき

△ 夕なきの藤江のうらの入海にすゝきつるてふあまの乙女子

たい*

△ 紀伊海にたいひくあみのをくかけてをくほとみゆるうけの数哉

為家

潮―底本・諸本「湖」、今改ム。○し―底本文「ら」（彰本同ジ）。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

八三―B四本、右肩に合点アリ。○め―彰本「み」。○る―彰本「か」。

信実―B四本「信実朝臣」。○八五―B四本、右肩ニ合点アリ。○せ―彰本「を」。

ト―彰本本文ナク、右ニ「す」トアリ。○に―底本本文一の（彰本同ジ）。右傍ニ「にイ」トアルニヨリ改ム。B四本「に」。○つ―彰本本文「ふ」トシ、「つ」ト朱訂。

い―彰本「ひ」。○海―底本・彰本・B II 三本「母水」（「字」、高本ニヨリ改ム。○を―底本「く」ラ「き」ト朱訂、合採ラズ。高本「おく」B II 三本「奥」。○か―彰本ナク、朱ニテ補入。○ほと―高本ナク、右ニ「本定」トアリ。○う―彰本「こ」（字形不分明）。黒本、字形かニ近シ。

六 行春のさかひのうらのさくらたいあかぬかたみにけふやひくらむ

あゆ

七 賀茂川ののちせしつけみさしさしてあゆふす淵をねるやたかこそ

正三位知家「九ウ

八 御山川のほるこあゆのたてなかしからくもこる世にやむまれん

義淳法師

九 よしの川瀧のせのほるわかあゆのさはしるらめやいもにこふとは

前撰政左大臣

十 はや河にやなうち渡すあた人のこころのせにそおもひ侘ぬる

為家

十一 湊川ゆくせの水のくたりやな春のひよりにはやさしてけり

いけ

橘則広

十二 はらのいけの入江の水おちふしつけてたもさすあさそ氷そめぬる

たぎ

正三位知家「一〇オ

十三 たえず行水のしら糸たてぬぎにたれをりかけし布引の滝

にはたつみ

前大納言為家

さー彰本本文「せ」トシ、「さ」ト朱訂。

せー彰本「を」。○さー彰本本文「た」トシ、改メテコレヲ「た」ト朱訂。B四本「た」。○さ久本本文「さ」(字形不分明)トシ。右ニ「さ」トアリ。

御ー底本「太」ト朱訂、今探ラズ。諸本「御」。○らー底本本文ナシ(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。○世にやむまれんー底本「世にむまれけん」ト朱訂、今探ラズ。○ま久本本文「ま」ナシト書キトシ。右ニ「ま」トアリ。

るー底本「な」(彰本同ジ)、B四本ニヨリ改ム。○もー彰本本文「り」トシ「も」ト朱訂。なー底本本文「る」トシ、右ニ「な」ト訂正。○にー底本本文「の」(彰本同ジ)朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。○うー彰本本文「か」トシ、「う」ト朱訂。

せー彰本「お」。○よりー底本本文「かり」、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。彰本「も」。○さー彰本本文「た」トシ「さ」ト朱訂。○さ

江ー彰本本文「江」(字形不分明)トシ、「江」ト朱訂。○のー底本本文ナシ(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。○すー高本「右傍ニ」トアリ。○さー高本「き」。○氷ー彰本字形不分明、高本「め氷」。

りー彰本「う」。○けー高本本文「ま」トシ、見セ消チニテ「け」トス。○しー底本本文ナシ(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。○はー彰本本文「あ」トシ、見セ消チニテ「は」トス。BII三本「わ」。○とーB四本「の」。

ななかめのみたゝつれくと庭たつみ世にふりはてゝ行方もなし

正三位知家

丸* むらさめのふるほともなき庭たつみさてすみはてぬ身をいかゝせん

同

丸 こゝへの沢辺のあやめねをふかみなかくやひかんとものみやつこ

衣笠前内大臣

100 初霜はをきにけらしな楸おふる沢辺のちはら色付にけり

ふち*

信実朝臣』一〇ウ

101 みくりひくなみ間やいつくぬま淵*のふかさも見せず氷る冬かな

せ

入道前撰政

102 岩そゝくたるひとやみる滝川のせのほる月のかけ氷るらし

あま

衣笠前内大臣

103 伊勢の海の家までかたかきつめていくたひおなしもしほたくらん*

藤原行家朝臣

104 いせのうみのあまのまてかた行かへりくみほす塩のまなくこひつゝ

あみ

為家

105 すまの海士の網のひき綱くりかへしうちはへなとて恋しかるらん

〇み―彰本文「れ」（字形不分明）トシ、「み」ト朱訂

九―B四本、右肩ニ合点アリ。〇さ―彰本文「せ」トシ、「さ」ト朱訂。〇さて―底本文「とて」トシ、（彰本同ジ）、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。〇せ―久本本文「け」トシ、見セ消チニテ「せ」トス。

の―底本・彰本「や」、B四本ニヨリ改ム。

は―彰本文「か」（字形不分明）トシ、「は」ト朱訂

ふ―久本本文「ふ」トシ、右ニ「ふ」トアリ。〇淵―底本文「藤」（彰本同ジ）、朱訂ニヨリ改ム。B四本「ふち」。〇せ―彰本文「さ」、見セ消チニテ「せ」トス。

の―底本・彰本ナシ、B四本ニヨリ補フ。

くら―底本文「てこ」（彰本同ジ、但シ「てこ」ハ「ら」ニ近シ）、朱訂ニヨリ改ム。B四本「くら」。

く―彰本文「つ」トシ、見セ消チニテ「く」トス。〇こひ―底本文「とひ」（彰本同ジ）、「と」ヲ「こ」ト朱訂セルニヨリ、又B四本ニ「恋」トセルニヨリ、改ム。

なのりそ

同「一一〇

二〇六* わかの浦にいそのなのりそこれはかりわつかにかけあまのさひしさ

みるめ

知家

二〇七 朝日かけあかしのうらのしほかれにみるめかりほすあまの袖みゆ

われから

藤原為氏朝臣

二〇八 うらみ佗あまのかるもにすむゝしのそよわれからの音はなかれける

源有長朝臣

二〇九 たくひとはもにすむ虫の名をそ思むかしよりうき世とはきかねと

かひ*

源兼泰

二一〇 あふまでのかたみの浦のうつせ貝みるに心のくたけてそみる

入道三品親王「一一ウ

二一一 神しまやいそまの浦によるかひの身はいたつらになりはてぬはた

はま

為家

二一二 あき風の吹上の浜の真砂やま外には見ける月のかけかは

入道前撰政

二一三 興津風吹上の浜のしほひかた真砂みたれて霞ふるらし

ちとり

前大納言為家

二一四 とぎつかせさむく吹らしかしかしるかたしほひの千鳥夜半に鳴也

り「彰本」る。〇れ「彰本」の。〇わ「彰本」い。〇二〇六一B四本、右肩ニ合点アリ。

ゝし「底本」とし「(彰本同ジ)、B四本「虫ニヨリ改ム。〇わ「彰本」い。〇ら「彰本」し」。

む「彰本本文」ひ「トシ、む」ト朱訂。〇ね「彰本」れ。

ひ「底本本文」い、朱訂及ビ諸本ニヨリ改ム。

かひ「底本本文」かい、朱訂及ビ彰本ニヨリ改ム。B四本「貝」。〇は「彰本」わ「(字形不明)。

前「底本・彰本ナシ、B四本ニヨリ補フ。〇興「B II 三本「興」、高本「おき」。

し「高本」も。〇あ「彰本」み。

はまゆふ

信実朝臣

二三 かさぬとは何かいふらんはまゆふのへかれのみ行我世かなしも*

も―彰本「み」。

なみ

入道前撰政「二二オ

二六 わたの原霞もいくへたつ浪のゆたのたゆたにうら風そふく

前―底本・彰本ナシ、B四本ニヨリ補フ。○霞
―底本・彰本「籍」、B二二三本ニヨリ改ム。高
本「かすみ」。

現存和歌六帖第四

さうのおもひ

九条前内大臣

二七 おもへたゝ水になけゝる石なればうかふ世もなくしつみぬるかな

信実

二八 袖いたにとり所なきかたをちのくつなきものは我身なりけり

藤原為朝臣*

二九 偽の人のとかさへ身のうきにおもひなさるゝゆふくれのそら

人のこゝろをいかゝたのまんといへる事を人く」二二ウ つ
け侍けるに
衣笠前内大臣

三〇 たれもみななさけ有よになりぬとも人のこゝろをいかゝたのまん

三一 めのまへにうみといふうみはかれぬとも

三二 六月のてるひにしもはきえずとも

三三 をしなへてからすはしろくなりぬとも

石―B二二三本「名」。○も―彰本「に」。

い―彰本文「を」トシ、右ニ「イイ」ト朱
校。○く―彰本文「ニ」トシ、右ニ「く」ト
朱校。

朝臣―B二二三本ナシ。○に―松本文「たり」
トシ、見セ消テニテ「に」トス。黒本・久本
「に」（耳）ノ草体。

へ―彰本文「は」トシ、「え」ト朱訂。○事
―高本文「ふ事」、B二二三本「ふる事」○けるに
―底本文「けに」朱訂及ビB四本ニヨリ改
ム。彰本「ける」。

二二―高本、以下一五八マデ二字下ゲ、三句
ニテ必ズシモ改行セズ。

なりぬ―底本文「ならぬ」（彰本同ジ）、朱訂
及ビ高本ニヨリ改ム。B二二三本「なる」、松本
「な」ノ上ニ小丸アリ。

- 二四 かめの尾を衣にたちてきたりとも
- 二五 つりのをにくちはとめてつなくとも
- 二六 たつねてはよもきか島にいたるとも
- 二七 をしかもは水にもしつむ世なりとも」一三〇
- 二八 にはとりのみつにうくよと成ぬとも

正三位知家

- 二九 もよ夜まで月のさかりはつくととも
- 三〇 ゐなつまのひかりはしはしとよむとも
- 三一 もみち葉はもとのみとりにかへるとも
- 三二 老らくはかとさせりとていはるとも
- 三三 なみわけてしなぬくすかはもとむとも
- 三四 むかしへの夢はうつゝになせりと
- 三五 ちとせふるためしを身にははしむとも
- 三六 なかはまのまさこはかそへつくすとも』一三ウ
- 三七 たえにけるくめちのはしはわたすとも
- 三八 いくかへり松の花をはさかすとも

信実朝臣

尾―B II 三本「毛」。○た―彰本ナシ。

水―高本「木」。

う―久本本文「う」(「こ」ニ近シ)トシ、右ニ「う」トアリ。

くすか―彰本「くすりか」、B 四本「くすり」。

せり―底本本文「りぬ」(彰本同ジ)、朱訂及ビ B 四本ニヨリ改ム。
は―高本「よ」。

え―黒本「へ」(但シ字形「く」ニ近シ)、久本・松本「く」。○の―松本ヨノ上ニ小丸アリ。
の―底本本文「は」(彰本同ジ)、朱訂及ビ B 四本ニヨリ改ム。○は―底本本文「そ」(彰本同ジ)、朱訂及ビ B 四本ニヨリ改ム。

現存和歌六帖（福田）

三六 あつらへは花にも風はよはるとも

一四 おほそらにせはき袖をはおほふとも

一四 ふしといふねをはたいらになせるとも

一四 いつはりのなきよのなかに成ぬとも

一四 くものいにちひぎのいしはひかすとも

一四 大海をふなのりせてはわたるとも

一四 くちなしの花にはものをいはずとも 一四オ

一四 からすはにかくてふふみはよめりとも

一四 おいらくのおかいにしへはかへるとも

一四 あみのめにうけたる水はたまるとも

一四 もろこしにひとひにちたひかよふとも

一四 あまつ空わか手にをよふ身なりとも

一五 くれて行日かけをさらにかへすとも

一五 あらはれて神のものいふ世なりとも

一五 つめの上の土にうへ木は生ぬとも

一五 むは玉のかみのすちをはかそふとも 一四ウ

卜部兼直宿禰

ほそら―底本右傍ニ「をイことイ」ト朱校。彰本「をそち」。黒本・久本「ほそら」(但シ「ら」ハ字形「く」ニ近シ)。松本「ほそく」。○は―底本・彰本「そ」。B四本ニヨリ改ム。○は―ふ―彰本本文「ゆか」トシ、右傍ニ「ふイ」トアリ。

き―久本「さ」。○の―彰本ナシ。

な―彰本「る」。○る―底本本文「す」(高本同ジ)。朱訂・彰本及ビBII三本ニヨリ改ム。

わか―彰本「いる」。

なり―松本ナシ。黒本・久本「成」。

かへ―底本本文「かく」(彰本同ジ)。朱訂及ビB四本「返」ニヨリ改ム。

の―彰本「に」。○土―底本「土」、諸本ニヨリ改ム。○土―底本本文「と」、朱訂及ビ諸本ニヨリ改ム。

二五 桜花やなきの枝にさきぬとも

桜—彰本「梅」。○の—B II 三本「か」。

二六 かめのうへの山をはたつねえたりとも

二七 をのつからつのある馬はえたりとも

二八 雲のはて海のはてをはたつぬとも

つゑ

前大納言為家

二九 宮の内の正月は上の卯の日ととるてふつゑはよろつ代のため

たひ

知家

三〇 雪ふかみとよろかしきのあしたゆくみちふみわくるこしのたひ人

* 現存和歌六帖第五「一五オ

しめ

前大納言為家

三一 千はやふる神かき山のみしめなはかけてとふともしらせてし哉

衣笠前内大臣

三二 いつまでかときはのりのみしめなはつれなき色にかけてこふへき

入道前撰政

三三 こころのみうきたのりのしめなはのななき夜すから独かもねん

三四 さくなみのおほやまもりのゆふしめにこひのやつこの路まとふへく

為家

馬—B 四本「こま」。

知家—B II 三本「正々知家」。○か—底本文ナシ、彰本同シ、朱訂及ビB 四本ニヨリ補フ。○と—ろ—B 四本「かゝる」。○か—底本文ナシ、彰本同シ、朱訂及ビB 四本ニヨリ補フ。○わく—彰本「つく」。B 四本「分」。現存和歌—底本文「寛元和歌」(彰本同シ)、高本ニヨリ改ム。底本文朱訂及ビB II 三本現存

こ—底本文「と」、朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。彰本「か」。

の—彰本「に」。

く—彰本「き」。

一五 恋せしといのれし神はうけひかて人くるしめになりまさるかな

あひおもはぬ

信実「一五ウ

一六 とりかぬるあさ木の宮木ふしゝけみさも我にくゝ人のいふ哉

人をたつぬ*

同

一七 草わかき野へもる人に物申われそのそこにつまやこもれる

めつらし*

知家

一八 かつ見てもなをそめかれぬしの薄はつほにむすふいか手枕

くちかたむ

信実

一九 うらみしとくちかためたるしけとうの弓末みたれてとけも行哉

家とうしとおもふ

知家

二〇 たかやすのみもとははやくなれにけりてつからのけこのそなへをそ
やる*

くし

信実「一六オ

二一 あふ事をとふやゆふけのうらまさにつけのをくしのしるしみせなん

卜部兼直宿禰

二二 一つの世にひたひのをくしさしそへて又かへりなとちかひそめけむ

木一底本・彰本「の」、B四本ニヨリ改ム。○
ト一底本ナシ、高本「と」(字形不分明)。○さ
も一底本本文「さかも」(彰本同シ)、朱訂及び
B四本ニヨリ改ム。
ぬ一底本・彰本字形「ね」、B四本ニヨリ定ム。
○申一高本「もうそ」。

つら一彰本「へこ」。○見一彰本本文「う」ト
シ、「み」ト朱訂。

み一彰本「め」。○弓末一底本「ゆみすゑ」(彰
本同シ)、高本ニヨリ改ム。B二一本弓する。
○も一彰本「は」。

知家一底本・彰本ナシ。B四本ニヨリ補フ。○
て一底本「み」ト朱校、今探ラズ。○の一底本
朱ニテ見セ消チ、今探ラズ。○を一高本物。
○や一底本「す」ト朱訂、今探ラズ。

うら一彰本本文「た」トシ、見セ消チニテ
「ウラ」トス。

ひ一彰本本文「置」トシ、見セ消チニテ「ひ」
トス。○て一久本本文「て」トシ、右ニ「て」
トアリ。

前撰政左大臣

一五三 さしなからゆつ＊のつまくし身にかへてしはしもいもにはなれすも哉

たまたすき

為家

一五四 しつ＼のめかあさてほす＊てふ玉たすき思かくれはちかふ世もなし

かゝみ

衣笠

一五五 いつまでか山とりのおのおかゝみにつらきころをかかけてみるへき

ころもうつ

前中納言定嗣＊二六ウ

一五六 きけは又こよひも千こゑ万こゑやむ時もなくてうつ衣かな

信実＊

一五七 山かつの身はしもなから衣うつをとにあはれやきこえあくらん

かりころも

同

一五八 草の葉に袖つくみちのかり衣いかなる露の色にそむらむ

おひ

知家

一五九 ゆきあはてきてな＊かひか＊はかけをひ＊のかけしか＊今は末も頼まし

ひとり

為家

一六〇 たき物のくゆるけふりの下おもひ我ひとりとや身をこかすらん

ら―底本・彰本「リ」、B四本ニヨリ改ム。〇
つ―底本「へ」、B四本ニヨリ改ム。〇
「へ」トシ、「右ニ」「つ」トアリ。〇
本文「う」トシ、「か」ト朱訂。

一七四―高本、合点短クアリ。〇ほ―彰本「な」。
〇世―底本・彰本「せ」、B四本ニヨリ改ム。

嗣―B二三本、ホボ「合」ヲ偏ニ「司」ノ字。
但シ久本ハソレヲ見セ消チニシテ「嗣」トス。

信実―底本・彰本、行間補入。〇こえ―底本本
文「み」(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ改
ム。

か―久本文「に」トシ、見セ消チニテ「か」
トス。〇か―底本文「う」(諸本同ジ)、今、
右ニ「か敷」朱書セルニヨリ改ム。〇か―彰
本朱ニテ補入。〇今―彰本も「B四本こと」と
(一八二参照)。

おもひ―高本、右ニ「むせひイ」トアリ。〇我
―彰本本文「を」トシ、「我」ト朱訂。

ふみ*

知家

一六 ものゝふのやそうちふみはかた／＼にゆき別たるあとそみえける」一七オ

こと

信実

一七* 我よはひたつることちのをあはせのたゝせめにのみせめもくるかな

ふえ

為家

一八 世中はうきひとふしにふくふえのあなむつかしやねこそつきせね

弓

知家

一四 さても又なをやうらみん梓弓いてやと人をおもふものから

義淳法師

一五 あつさ弓やはすとりむけひくかたに右となひそ後もたのまん

隆祐

一六 我恋はまつきの弓のいたつらにあはする竹の一よたになし』一七ウ

や

信実

一七 けふはみなゆたちのいてのほかまでもすゝのいたつきこしなれにけり

たち

衣笠*

み―底本・諸本「え」、今改ム。○み―高本「え」。

一八二―B四本、右肩ニ合点アリ。○こと―彰本「も」。○め―彰本ナシ、但シ本文ノコノ部
分ニ○印アリ。

く―彰本文「し」（字形不分明）トシ、「と」ト朱訂。B四本「と」。○ふえ―底本、右傍ニ「笛」ト朱書。彰本「ふみ」。○ね―久本、袖。○つき―底本、右傍ニ「絶イ」ト朱書。○ね―高本「ぬ」。せ―久本本文「け」ヲ見セ消テニテ「せる」トス。

て―久本本文「も」トシ、見セ消テニテ「て」トス。○ものから―底本「物」ナク、歌ノ下ニ「本マ」ト朱書。高本ニヨリ「もの」補フ。B二―三本「物から」。彰本「かし」。

ナ―高本「つ」。○に―B四本「の」。○いひそ―底本文「いひとり」。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。彰本「ひこし」。

恋―彰本右ニ「コヒ」トアリ。

信実―B四本「信実朝臣」。○か―高本「り」。○の―底本文ナシ（彰本同ジ）、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。

衣笠―底本・彰本、下ニ「い」ト記ス。高本「衣笠前内大臣」。○二―彰本「こ」。○よ―底

一八 からくにの二のたちは昔より君のまもりとさためをきてよ*

かたな* 知家

一九 いまは我まろはにとけるこしかたな世につかはれぬ身とそ成にし

さや* 下部兼直

二〇 きひの山まかねのさやをさしそめしちかきまもりのかひそ有ける

為家

二一 いたつらにあれば有とてさけさやのまことの時はいる身共なし 一八〇

はかり 知家

二二 民の戸にあきおさめするいなはかり年ふる御代をかけてしるらし*

みの 為家

二三 かち人の野分にあへるふるみのけをふく世こそくるしかるらめ

くれなる 為家

二四 くれなるのすゑさく花の色ふかくうつるはかりもつみしらせはや

紫 同

本右ニ「きイ」トアリ。彰本「よた(きトモ見ラルル)」トシ、「たる」ヲ見セ消チニテ「き」ト朱訂。

な一彰本本文「み」トシ、見セ消チニテ「な」トス。○我一底本本文「我に」(彰本同シ)。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

や一彰本「や」ヲ朱ニテ「や」トナゾル。○兼直一高本「兼直宿禰」。○山一彰本ナシ。○ち一彰本「弓」。○か一彰本朱ニテ補入。○そ有ける一彰本「さかけり」。

さけ一黒本・久本右ニ「かりイ」トアリ。○さや一底本右ニ「かりイ」トアリ。又「さや」ヲ朱ニテ見セ消チトス、合探ラズ。彰本本文「さ」(字形不分明)トシ、「さ」ト朱訂。○こと一彰本「も」トシ、「く」ト朱訂。○身一彰本「も」(字形不分明)。

一九二一B四本、右肩ニ合点アリ。○し一高本「ん」。

分一彰本「辺」。○の一彰本本文「ち」トシ、「の」ト朱訂。○世一彰本「せ」。○こそ一底本本文「とて」(彰本同シ)。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

色一久本本文「宮」トシ、見セ消チニテ「色」トス。○かり一彰本「計」。○は一彰本「り」(字形不分明)。

一五 ちむらさきはなへて位の色なれはこきももうすきもやはき成けり

あや

同

一六 吹はらふ風にたゞよふ雲鳥のあやうやうきて世を過る身は』一八九

糸

衣笠*

一七 いかにせんしつかひくてふはついと心の心よはさにみたれそめぬる

為家

一八 しつはたのあさのうみいとよるともたえにし後はあはん物かは

わた

淨忍

一九 かきこもるくはこのまゆはいふせくてよもきの綿をきし人やたれ

ぬの

為家

二〇 みちのくのけふのほそぬのゆきあはぬむねのあたりはもえつゝそふ

る

二一 うらにあふをみのあさぬのとちかけしよゐ暁もそのかみのこと

「一行空白」一九オ

現存和歌六帖第六

冬のくさ

信実朝臣

も―底本文「を」(彰本同シ)、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

○や―高本文「き」トシ、右ニ「や」ト傍書。○う―底本文「か」(彰本同シ)、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

衣笠―高本「衣笠前内大臣」。○く―彰本「て」。

る―彰本「り」。

せ―底本文「せ」トシ、改メテコレヲ「せ」ト朱訂。

り―底本文「か」、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。彰本本文「に」トシ、見セ消チニテ「か」トス。

ら―彰本「し」。○み―彰本「の」。○かみのこと―彰本ナシ、但シ次行歌題ノ位置ニ「よみも」トアリ。

現存和歌―底本文「寛元和歌」(彰本同シ)、高本ニヨリ改ム。底本朱訂及ビBII三本現存」。

三三 かたちこそ霜のくち葉と成はてめたてるもよはき翁草哉

したくさ 為繼朝臣*

三三 いまたにもひく人あれや山しろのこまのうりにもしける下草

にこ草 明珍法師

三四 我おもふ人しるらめやあしかきの中のにこくさしたにもゆとも*

やまふき 知家

三五 はふりこか衣の色やまかふらし神のみむろの岸の山ふき*

あきはき 同『一九ウ

三六 人はこぬ草葉のこの露のうへにかたしきねたる萩か花つま

為氏朝臣*

三六 秋萩はうつろひぬらし乙女子かゆきあひのわせもまたからぬまに*

菊* 知家

三六 そかきくの色にてこらもみえわかす秋の初霜をきまよひつゝ

くさのかう 同

三六 けふも又市女かもたる草くのかふ人おほみのこりすくなき

為繼朝臣―B四本「藤原為繼朝臣」。○う―彰本「か」。○にも―高本「ふに」、B二本「舟本」。

る―久本本文「な」トシ、見セ消チニテ「る」トス。○くさ―彰本「り」。○もゆ―彰本「もゆる」、高本「みゆ」。

神―底本字形「袖」、B四本ニヨリ改ム。彰本文「袖」トシ、左傍ニ朱ニテ「イ神」神字に似たり正しく袖字ニハ非ス」ト注ス。

あきはき―類従本「はき」。

為氏朝臣―B四本「藤原為氏朝臣」。○わけ―高本本文「わけて」トシ、右ニ本定トアリ。○ら―彰本「ら」。右ニ朱ニテ三字アレド判読不能。○に―底本「は」、諸本ニヨリ改ム。

菊―B四本・類従本「きく」。○こ―底本本文「う」。朱訂及ビ高本ニヨリ改ム。彰本・B二本「モ」字形「う」ニ近シ。○も―高本本文「も」トシ、右ニ「さ欺」トアリ。

かや

為家

三〇 はた山のおのへつゝきのかゝやにふす猪ありやと人とよむ也

ひし

同「二〇オ

三一 いかゝして池のひしつるうき事ははしめもはてもおもひわくへき

ねぬなは

真観

三二 おくろさきぬたのねぬなはくるしきは此世にひけるこゝろ也けり

あさゝ

信実

三三 みれは又あさゝおふてふさはみつ底の心のねをやあらはず

たまかつら

隆専法師

三四 わきもこか宿山にかゝるたまかつらくるとはみゆるも夢ち成けり

さねかつら

忠基

三五 夏くれはおほえの山のたまかつらしけりにけりな道みえぬまで

さねかつら

為家「二〇ウ

三六 いとはしや山したしけきさねかつらはひまつはれてたへぬ心は

信実

二一〇―B四本、右肩ニ合点アリ。〇か―高本
「は」〇リ―底本文「る」、朱訂及ビ諸本
ニヨリ改ム。〇と―B二「を」〇よ―高
本「む」〇む―彰本文「む」(字形ヤヤ不
分明)トシ。〇む―彰本文「む」(字形ヤヤ不
分明)トシ。ト朱訂。

ひし―彰本文「ひかし」トシ、「か」ヲ見セ
消チトス。〇二―B四本、右肩ニ合点ア
リ。〇事―久本文「な」トシ、見セ消チニテ
「事」トス。

は―彰本文「と」トシ、見セ消チニテ「は」
トス。〇く―彰本文「と」トシ、見セ消チニ
テ「く」トス。〇た―彰本文「さ」〇な―彰本
文「る」(字形不分明)トシ、「な」ト朱訂。

〇さ―彰本文「えろ」ト
シ、「みつ」ト朱訂。〇底―底本文「庭」、B
三本ニヨリ改ム。高本「そ」トシ、右ニ「後」
トシ、右ニ「後」(抹消)カト注シ、更ニソレ
ヲ「底」ト朱訂。

隆―久本「隆」(字形ヤヤ不分明)トシ、左上
ニ改メテ「隆」トス。〇法師―彰本文「宿山」
ニ類從本「ねやま」トシ。〇か―彰本文「し」
トシ、「か」ト朱訂。〇は―彰本文「い」ヲ
「は」ト朱訂。類從本ナシ。〇も―高本ナシ。
〇ち―彰本文「こ」トシ。

忠基―B四本「右近中将忠基」。〇え―B底本
本文「く」(彰本文同シ)。朱訂及ビB四本ニヨリ
改ム。〇みえぬ―彰本文「えふ」トシ。

二一六―B四本、右肩ニ合点アリ。〇した―彰
本ナシ。〇て―久本文「と」トシ、見セ消チ
ニテ「て」トス。〇へ―B四本「え」トシ。

三七 まつはるゝなけきのもりのさねかつらたえぬや人のつらさ成らん

あをつゝら 為家

三六 我恋はあそ山もとのあをつゝら夏野をひろみさかりなり

つはな 信実

三九 玉梓の道のしは草ほに出てはるのつはなも人まねきけり

かにひ 源兼氏

三〇 いくとせの秋の今夜かあふ坂にひくてふ駒のあとふりぬらん

あちさゐ 知家「二一オ」

三一 今もかもきませ我せこ見せもせんうへしあちさい花咲にけり

わらひ 真観

三二 露かゝるを篠ましりの下わらひさも折ふしはぬるゝ袖かな

ゑく 知家

三三 雲雀あかる山沢水に袖たれてゑくの若葉をつむはたか子そ

ゆり 同

三四 いまも猶草のま袖にかくろへてあらはに見えぬ野への姫ゆり

ある 衣笠

つ―彰本文「へ」トシ、右ニ「つイ」ト朱校。○「彰本文」も「も」。○「ネ」底本文「ン」(彰本同ジ)。朱訂及ビ高本(字形「ラ」近シ)。松本ニヨリ改ム。黒本・久本「へ」ニ近シ。○「底本」諸本「か」。類従本ニヨリ改ム。

そ―底本・彰本「す」、B四本ニヨリ改ム。○今―彰本「と」。○かり―彰本「に」。○実―彰本「雲」。○人―彰本「は人」。○り―底本文「る」(彰本同ジ)。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

見せ―彰本ナシ。

篠―高本「さ」。○折―B二「本」松」、高本「おり」。○ぬ―彰本「ふ」。○く―彰本「て」。○に―底本文「野」、朱訂及ビ諸本ニヨリ改ム。○か―久本文「か」トシ、抹消シテ右ニ改メテ「か」トス。

ま―底本「まか」、B四本・類従本ニヨリ改ム。○「に」かくろ―彰本「うへそ」。○野―彰本右ニ「の」トアリ。あゐ―B四本、二二五・二二六(作者名共)逆順。○衣笠―B二「本」衣笠前内大臣。○ま―彰本文「る」トシ、見セ消チニテ「ま」トス。○に―彰本ナシ。

三三 はりまなるしかまの里にはす藍のいつか思ひの色にいつへき

信実^{*} 二一ウ

信実^{*} B II 三本「信実朝臣」（久本ハ初メ「衣笠前内大臣」ト書キ「抹消シテ「信実朝臣」トス）。

三七 はりまなるしかまにつくるあいはたけいつあなちのこそめをかみ
ん

山たち花

同^{*}

三七 あとたゆるやまたち花のいはかくれ身のなるさまをしる人もなし

衣笠^{*}

三六 いはかねはみとりもあけもはえいろの山たち花のときはかきはに

さゝ

真観

三六 もとつてのいそしのさゝふ分みれと我世はかりのうきふしはなし

信実朝臣

三元^{*} a 山かつのしつかかきねの篠くるめにきはふまてのすみかとはみし

あふひ

為家

三三 賀茂山のみあれをちかみ今こそは神のみやつこあふひかるらん

師光^{*} 二二オ

ちかみ^{*} 彰本虫損形ヲ記シ、右ニ「か」ノ一部ヲシキ形ヲ記ス。○今^{*} 彰本本文「そ」トシ、「今」ト朱訂。
○師光^{*} B 四本「中原師光」。○かみ^{*} 久本「か

同^{*} 高本「信実」、B II 三本「信実朝臣」。○二二七^{*} B II 三本、二二八^{*} ト（歌ノミ）逆順、從ツテテコノ二首ノ作者他本ト逆。類從本ニハ二二八^{*} ハアリ（作者「信実朝臣」）。○人^{*} 彰本本文「おへ」トシ、見セ消チニテ「人」トス。衣笠^{*} B 四本「衣笠前内大臣」。○みとり^{*} 底本本文「とり」。朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。○か^{*} 彰本本文「わ」（ナツリ書キニテ字形不分明）トシ、右ニ「か」トアリ。松本「き」。

て^{*} 高本「色」。久本本文「く」トシ、見セ消チニテ「て」トス。○分^{*} 彰本右傍ニ「みイ」ト注ス。○と^{*} 底本本文「は」（彰本同ジ）、朱校及ビB 四本ニヨリ改ム。

二二九 a^{*} コノ一首及ビ作者名、松本アリ。黒本・久本（作者「信実」トス）、小字ニテ補入。

三三 そのかみのみかけの山のもろは草けふはみあれのしるしにそとる

みくり

為家

三三 今のはやとをちの池のみくりなはくるよもしらぬ人にこひつゝ

衣笠

三三 かくれぬにおふるみくりのくりかへししたにや物を思ひみたれん

いちし

知家

三三 人をいかておもひわすれん大原やこのいちしはのつかのまはかり

むし

三三 わかせこかこぬたにつらき風の音にさこそはなな秋のみの虫

せみ

三三 秋山の木はたにのこるうつせみのからくもひとり露けかるらん』三ウ

はな

皇太后宮大夫俊成女

三三 尋来ておりもそやつすこのさとに花咲そむといひなちらしそ

もみち

為家

トシ、見セ消こ」チニテ「かみ」トス。○の「底
本本文ナシ、朱訂及ビ諸本ニヨリ補フ。○み
底本文ナシ、朱訂及ビ諸本ニヨリ補フ。○に
そ「底本文「まで」(彰本同ジ)、朱訂及ビ
B四本ニヨリ改ム。

地「彰本「地」。○な「彰本「た」。○くる「
久本本文「人」トシ、右ニ「くる」トアリ。
○こ「彰本文「ま」トシ、右ニ「こ」トイ、
校。久本本文「と」トシ、右ニ「こ」ト朱
校。

衣笠「底本「同イ衣笠トアリ」トアリ、B四本
ニヨリ改ム。○る「久本本文「る」(字形不
明)トシ、右ニ「る」トアリ。

いちし「底本・B四本、二三三ノ前行ニアリ。
彰本(二三三ノ前行ニモ「いちし」ト書キ、見
セ消チトス)ニヨリ改ム。○知家「底本行間補
入、諸本ニヨリ改ム。○わ「彰本「は」。○こ
「彰本「山」。

は「底本文ナシ(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨ
リ補フ。

の「彰本「は」ヲナゾリテ「の」トス。類従本
「に」。○木は「彰本「は」。類従本「声」。
○け「底本「を」。朱校及ビ諸本ニヨリ改ム。

はな「底本・諸本「きりくす」、類従本ニヨ
リ改ム。○皇太后宮大夫俊成女「底本・諸本
式乾門院御匣、類従本ニヨリ改ム。底本・諸
本「コノ題、作者ト歌トノ間ニ少クトモ「きり
くす」ノ式乾門院御匣ノ歌脱カ。○来
久本本文「れ」トシ、見セ消チニテ来「トス。
○こ「彰本「み」。○む「底本・諸本「そむ
る」、類従本ニヨリ改ム。

三三 岡辺なるふかねのはしのはつ紅葉めきわたる夕つくひかな

俊成女

か一黒本「な」ニ近シ。〇め一B II 三本「あ」。
俊成女一B II 三本「皇太后宮大夫俊成女」。

三二 くれなゐにちしほやそめし山姫の紅葉かさねの衣手のもり

まゆみ

正二位忠定

三〇 あたちのも雪ふりにけりかり人のひかぬまゆみの末たはむまで

かへ

為家

も一底本本文「と」（彰本同ジ）、朱訂及ビB II 三本ニヨリ改ム。
か一彰本字形「う」ニ近シ。〇為家一底本・彰本ナシ B 四本ニヨリ補フ。

二四 しめのゆきむらさきのなるかへの杜葉かへすなからうつもれにけり」三才

信実

二四 道へのかへの風おちひろふとてこのしたかくれゆきそやられぬ

たけ

真観

の一彰本「は」。〇そ一底本本文ナシ（彰本同ジ）。朱訂及ビB 四本ニヨリ補フ。

二四 あさとあけてみればすしも上そよく竹の花見の秋の初かせ

あ一彰本本文「な」トシ、左ニ「あ」ト朱校。〇す一底本本文「こ」トシ（彰本同ジ）、朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。〇そよく一底本本文「そそよく」（彰本B II 三本同ジ）、朱訂及ビ高本ニヨリ改ム。〇初一底本本文「袖」（彰本同ジ）。朱訂及ビB II 三本ニヨリ改ム。高本「はつ」。

二四 物おもふ涙ときくもあはれなりむかしそめける紫のたけ

藤原隆祐

く一底本本文「へ」、朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。彰本本文「袖」トシ、右ニ「初」字形不分明。イ一ト朱校。〇り一底本本文「る」トシ、右傍ニ「り」トアリ、マタ「る」ヲ朱ニテ見セ消チトス。彰本「る」、B 四本「り」。

紅梅

権大納言実伊

二四 さぎあへぬ軒端の梅の紅にまつふりいてうくひすそなく

伊一久本本文「伊」（ナゾリ書き）トシ、右ニ改メテ「伊」トス。〇まつふり一底本本文「まつはふる」。朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。彰本「まろは」。

さくら

九条前内大臣

二四 はしたかもしらふになりぬ桜^{*}かり花のとたちに嵐吹らし』二三ウ

桜―彰本本文「梅」トシ、右傍ニ「サクラ」ト注ス。

かにはさくら

衣笠

二四 雪ふかき垣ねの梅のいかにして猶うつもれぬかにはさくらん

ひさくら

為家

二四 春をやく光はおなし梢^{*}にてわきて名にたつ火桜のはな

蓮信法師

梢―松本「指」。

二四 ちるたひにもえこかれてもおしきにはかまと山なるひ桜の花

ふち

知家

二四 しはかこふ藤のわかそにとりそへて花のしなひをねるはたれそも

そ―高本、右上ニ「はイトアリ。類従本「枝」。
○ね「彰本「ぬ」」。○る―高本「か」。○は―
類従本「や」。

立花

隆祐

二三 おもひやる昔もとをきみちのくのしのふの里^{*}にほふ橘』二四オ

にに―彰本「あし」。

安倍たち花

浄忍法師

二三 花さかぬを^{*}りもきてみよ我やとのあへたち花の色のでこらさ^{*}

を―B II 三本「ほ」、但シ黒本・久本、字形
「を」ニ近シ(久本ハナソリ書き)。○らさ―彰本
「くは」。久本「しさ」。

二三 常葉^{*}にてあへたち花のかはらねと行年^{*}しるくくけ生^{*}にけり
知家

常葉―類従本「ときは」、○しる―類従本「ふ

三三 夜もすからなにをしくれの染つらんひはらの山の峯の椎柴
しる* 無品親王^{寛仁}*

三三 位山みちのしる柴いまはにてかはらぬものとくちやはてなん
信実

三三 わきもこかたしきなからねにけらしけさくろかみのみたれかちな
さくろ 知家

る『二四ウ

山なし 為家

三三 きゝわたる面かけみえて春雨のえたにかゝれるやまなしの花

すもゝ 信実

三三 数ならぬかた山かけのあをすもゝ身はあるかひもなく成にけり
隆祐

三三 いなゝぎや竹生めくるそのふよりみゆるすもゝの花もめつらし

からもゝ 衣笠

る。○くー底本右傍ニ「レイ」ト朱校。彰本「く」トス。黒本・松本「し」、久本本文「し」トシ、右ニ「く」トス。

みー彰本文「み」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○無品親王「類」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○彰本「類」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○高本大字。寛仁「彰本」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。

ちー類「彰本」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○高本大字。○とー彰本「は」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○とー彰本「は」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。

ゝー高本本文「し」トシ、右ニ「きイ」トアリ。○る「彰本」トシ、見セ消テニテ「あ」トス。○かゝー彰本本文「まゝ」トシ、右ニ「かゝイ」ト朱校。

るー久本「り」。

もゝー彰本「し」（長サ二字分）。

三〇 いかにしてにほひそめけん日の本の我くにならぬからもゝの花

くるみ

信実

三一 夏山のしけみかくれのひめくるみかねてみまくなかたき恋哉

すき

為家

三二 道のへの杉の下葉にひくしめはみわすえまつるしるしなるらし

承明門院小宰相

三三 とひもせてつれなき色をならへとはたかうへをきし三輪の杉村

信実

三四 此くれも又みたれなはあやすきのめかみをにや人のおもはん

むろ

源仲業

三五 とものうらや浪ちはるかにこく舟のそかひになりぬいそのむろの木

まき

為家

三六 見すひさに成そしにけるをすて山まきのふるきの苔ふかきまで

前中納言経光

三七 真木の葉も苔おふるまで成にけりいくよかへぬる長岑のやま

○日「彰本文」「も」トシ、右ニ「日イ」ト朱校。○本「彰本文」「花」トシ、右ニ「本イ」ト朱校。○我「彰本文」「を」トシ、右ニ「我イ」ト朱校。

の「底本・B四本」「に」、今彰本及ビ類従本ニヨリ改ム。

わ「底本・彰本・高本」「に」、BII三本ニヨリ改ム。○し「彰本」「ん」。

門「高本ナシ。○とは「底本文」「は」(彰本同シ)、校合(右ニ「とはイ」トアリ)及ビB四本ニヨリ改ム。

又「彰本文」「かへ」トシ、右ニ「又イ」ト朱校。○か「B四本ナシ。○を「高本本文」「と」トシ、右ニ「本」トアリ。黒本・久本「せ」ニ近シ。○「彰本文」「つ」トシ、右ニ「く」トアリ。

く「彰本文」「ん」トシ、右ニ「くイ」ト朱校。

る「久本本文」「な」トシ、右ニ「る」ト傍書。

葉「久本本文」「茶」トシ、見セ消テニテ「葉」トス。○く「彰本」「かく」。○か「彰本」「る」。○岑「久本本文」「岑」トシ、右ニ改メテ「岑」トス。

かつら

為家

二六 舟とむる秋の入江の月かけにひかりたまらすちるかつらかな

信実

二六 ことにいまふるさとさむき長月のかつらの紅葉秋風そ吹

かうか

知家

二七 わきもこにかくとはかりはつけやらん形みのかうか花咲にけり

あふち

為家

二七 みかきもるとのへにたてるあふちかけ下ふみなれし道そわすれぬ」二六オ

かし

同

二七 とやまなる岡のかしはら吹なひきあれ行ころの風のさむけさ

真観

二七 秋かけて露やはそむるたまたすきうねひの山の峯のかし原

くぬぎ

衣笠

二七 高瀬さすさほのかはらのくぬぎ原色つく見れば秋のくれかも

つはぎ

藤原行家朝臣

二七 みの山のしら玉つはぎいつよりかとのあかりにあひはしめけん

かしは

源寂法師

か―彰本「と」。○ら―彰本本文「く」トシ、「ら」ト朱訂。

ら―久本本文「か」（字形不分明）トシ、右ニ「ラ」トアリ。

く―底本及ビBII三本、右傍ニ「こイ」トアリ。高本、右上ニ「ニイ」トアリ。

る―底本本文「リ」（彰本同ジシ）、朱校及ビB四本ニヨリ改ム。○と―高本「こ」。○へ―底本本文「ろ」トシ、類従本ニヨリ改ム。○道―彰本本文「ろ」トシ、見セ消チニテ「道」トス。○ぬ―類従本「そ」。

か―底本・彰本「は」、B四本ニヨリ改ム。○よ―高本「き」。

三六 故郷となりにしよゝりみの山のたまのはかしはとる人もなし』二六ウ

ほゝかしは 浄忍法師*

三七 おほのなる三笠の杜のほゝかしはかみのひくてにいくよさすらん

兼直

三八 すへらぎのみわそゝきますほゝかしは大宮人のさゝけもつかも

隆祐

三九 かつ山のそかひにたてるほゝかしはかせにからかふ音のさやけさ

なかめかしは 同

四〇 神無月しくれし日こそなかりけれなかめかしはの名にやふるらん

知家

四一 雲はれぬなかめかしはの下露はをやみなくこそ袖ぬらしけれ』二七オ

くは 為家

四二 ふるはたのくはのわか葉のこきたれてこはいかにとよねのみなかるゝ

源孝行

四三 おほうみのそのなかほまや君か代にゐくははらとみたひなるへき

故郷ニ彰本右傍ニ「フルサト」トアリ。○よ一
彰本本文「か」トシ、「かイ」トアリ。○よ一
くはしニ彰本「う」(字形不分明)。○師一BII
三本「し」。○かニ彰本本文「か」(字形不分明)
トシ。「かイ」ト朱訂。○く一B四本「ら」。

き一高本本文「かき」トシ、「か」ノ右ニ「本
定」トアリ。○ほゝかしは一底本本文「ほしは」
トシ。ト「ほ」ト朱訂。B四本ニヨリ改ム。彰
本「ほかしは」。ナホ高本本文「ほらかしは」
トシ。「ら」ノ右ニ「本敷」トアリ。○つ一彰
本「ろ」。

そか一底本右ニ「はかイ」トアリ。彰本「な」。
○からかふ一高本本文「うふ」トシ。「う」ノ
右ニ「本ノ」。「ふ」ノ右ニ「くカ」トアリ。
○の一底本右ニ「やイ」ト朱校。

日こそ一底本本文「か」とて。朱訂及ビB四本
ニヨリ改ム。彰本「ま」とて」。

は一類従本「の」。

くは一底本「は」ヲ見セ消テトシ、「わ」ト朱
訂。高本「は」。BII三本「わ」。類従本「く
り」トシ。歌の第二句モ「栗の若は」トス。カ
ツ、次ノ歌ノ前ニ「くは」トアリ。B四本一底本
本文「か」(彰本同シ)。朱訂及ビB四本ニヨリ
改ム。○くは一類従本「栗」。○こ一彰本「と」。
○なかるゝ一彰本「たか空」。

その一底本・彰本ナシ、B四本ニヨリ補フ。○

二六 はたつもり はたつもり 信実*
はたつもりつもりし雪の消ぬれはしつかすさひにわかはずむらん

しきみ

為家

二六 あはれなるしきみの花の契りかな仏のためとたねやまさけん

あせみ

信実

二六 みまくさは心してかれ夏のなるしけみのあせみ枝ましるらし』二七ウ

やまぢさ*

衣笠

二七 あしひきの山ぢさの花露かけてさける色これ我見はやさん

ゆつる葉

同

二八 ゆつる葉のときは色もうつもれぬあしくま山に雪のふれゝは

二九 これそこの春をむかふるしとてゆつる葉かさしかへる山人

知家

かたかし

為家

三〇 たれかみむ身をおくやまに年ふとも世にあふことのかたかしの花

に―底本本文ナシ（彰本同ジ）、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。○ら底本本文「い」。朱訂及ビ諸本ニヨリ改ム。○ら彰本「い」。

信―久本本文「信」（字形不分明）トシ、右ニ「信」トアリ。○も久本本文「も」トシ、右ニ「モ」トアリ。○つ―高本「く」。

ね―彰本「れ」。

せみ―彰本右ニ「わか」トアリ、左ニ「さかイ」ト朱校。○ま―彰本本文「は」トシ、右ニ「まイ」ト朱校。○夏―彰本右ニ「ナツ」トアリ。○る―B II 三本「な」。

さ―彰本「は」。

色―彰本「宮」。○つ―底本本文「へ」（彰本同ジ）。朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。○し―彰本従本「ら」。○ま―底本本文「さ」。諸本同ジ但シ黒本ハ親本ノ虫食跡ヲ写シ、字形殆ンド無し。朱訂及ビ類従本ニヨリ改ム。○ハ―彰本「と」。

これそ―底本本文「これその」（彰本同ジ）、朱訂及ビB II 三本ニヨリ改ム。高本これやこの。○し―底本「へ」ト朱訂、今探ラズ。

こと―彰本「み」、久本「と」。

つまゝ 信実

三五 いそのうへは心してゆけまさこちやねはふつまゝにこまそつまつく二八〇

源兼氏

三五 たつのゐるいそへのつまゝよゝかけていつれかひさに年のへぬらん

信実

三五 こかくれも時こそありけれあを山のみねのさねきは花咲にけり

知家

三五 袖にみつよはのなみたを尋こて水こひ鳥の一人なくらむ

信実朝臣

三五 このうちをおもひやいつるはなち鳥さらぬわたりの梢にそすむ

為家

三五* 春の野のありすのひなのはをわかみおもひたてとも行多なきよや二八ウ

従三位行能

三五 もゝ鳥のふるすにとめしすもりこのかへらぬ物はくるゝ年なみ

空暁法師

三五 ためしあればつるのかいこも君かため十つゝ十や千代をかかさねん

為家

三五 塩軌のひかたの浦のはなれすにたつそなくなる友よはふらし

つまゝ、彰本「ほまし」。〇「い」B II 三本「ハ、
〇う」久本本文「う」(字形「こ」二近シ)ト
シ、見セ消チニテ「う」トス。〇して久本右
ニ「シテ」トアリ。〇こま一底本本文「馬」
(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

ある一久本本文「み」(字形「み」二近シ)る」
トシ、見セ消チニテ「ある」トス。

ね一彰本本文「ぬ」トシ、見セ消チニテ「ね」
トス。〇かく一彰本本文「かへ」、右ニ「かく
イ」ト朱校。〇も一底本本文「を」(彰本同ジ)
朱訂及ビB四本ニヨリ改ム。

と一彰本本文「口」(親本ノ虫損跡ニテ字形不
明)リトシ。〇ノ右ニ「と」トアリ。類従本
「みつこひ」とリ。〇を一底本右ニ「のイ」ト
朱校。〇く一彰本本文「つ」トシ、右ニ「く」
トアリ。

はな一底本本文「花」(彰本同ジ)、朱訂及ビB
四本ニヨリ改ム。〇や一彰本ナシ。

二九六一高本合点ナシ。〇わか一類従本「よは」。
〇一底本本文「に」、朱訂及ビ諸本ニヨリ改
ム。

め一B II 三本「あ」。〇へ一久本本文「へ」(字
形「つ」ニ近シ)トシ、右ニ「へ」トアリ。

ゝ一彰本ナシ。

つる一底本・諸本ナシ、類従本ニヨリ補フ。〇
塩軌一類従本「しほかれ」。〇そ一彰本「う」。

かり

九条前内大臣

三〇〇 河水にとわたる雁のかけみえてかきなかしたる秋の玉章*

鶯*

尚侍家中納言

三〇一 いまもなを雪ぎえかたき谷かけにすかくれてなく鶯のこゑ」二九〇

ちとり

義淳法師

三〇二 おもひかね行やさほちのさ夜千鳥いもにあふよをやりちよともなけ

しき

為家

三〇三 霜かれののたの草ねにふす鳴のなにのかけにか身をもかくさん

からす

前太政大臣

三〇四 うかれきてさこそはひるとまよふらめあくるもしらぬ月の夜からす

さき

信実朝臣

三〇五 河なかのあさせやいつくみとさぎのたちともみえぬ五月雨の比

あさまたき

為家

三〇六 あさまたきそれがあらぬかさきたてるさむきなささによするしら波」二九ウ

しつのおか

右兵衛督基氏

三〇七 しつのおかそとも小田のみくさるにみなくちまもる鶯たてるめり

はこ鳥

衣笠前内大臣

雁―高本「しま」、B II 三本、石偏ニ「鳥」ノ字。○章―彰本「くさ」、B 四本「つさ」。

鶯―彰本「鶯」、B 四本「うくひす」。○も―底本・彰本ナシ。B 四本ニヨリ補フ。○に―底本本文ナシトシ。右ニ「にイ」ト朱校。○く―底本本文ナシ（彰本同ジ）、朱訂及ビB 四本ニヨリ補フ。

千―彰本本文「に」、右ニ「千イ」ト朱校。○け―彰本「せ」。○よ―彰本本文「に」トシ、「よ」ト朱訂。

に―彰本「り」。○も―底本本文「そ」（彰本同ジ）、朱訂及ビB 四本ニヨリ改ム。

か―彰本コノ部分親本ノ虫損跡ヲ描フ。

明。か―彰本ナシ。○さ―彰本、虫損ニテ字形不

か―底本・彰本「も」、高本及ビ類従本ニヨリ改ム。B II 三本「り」。○も―彰本「え」、B II 三本「へ」。○みな―底本文ナク（彰本同ジ）朱訂「（みな敷トアリ）及ビB II 三本ニヨリ改ム。高本「みふ」。

三八 春されは友まとはせるはこ鳥のふたかみ山に朝なくなく*

信実朝臣

三九 何ことを思ひいれてかはこ鳥のあくる朝けに音をはなくらん

かほ鳥

三〇 ありとてもまた見もしらぬかほ鳥のいとよかすみに空かくれつゝ

藤原隆祐

三一 川きしのあくひをつたふかほよ鳥身をたのみてやかけを見るらん三〇オ

つー彰本文「川」トシ、見セ消チニテ「つ」トス。○よー底本文ナシ(彰本文同ジ)、朱訂及右ニ「やイ」ト朱校。

承明門院小宰相

三二 わかかとのあくひはあれとかほよ鳥きゝしにたるこ多たにもせぬ

知家

三三 もすのゐる野への草葉の末さはき羽もやすめる秋風ぞ吹く

三二一三B四本、右肩ニ合点アリ。○末一彰本文「ま」トシ、見セ消チニテ「末」ト改ム。○やー底本・彰本「や」ト、B四本ニヨリ改ム。朝臣一B二ニ本ナシ。○よー底本文ナシ(彰本同ジ)、朱訂及ビB四本ニヨリ補フ。

信実朝臣

三四 みわたせは一村すゝきもすなきてやゝかれにけるのへのさひしさ

明珍法師

三五 日のくれにおほやかはらを分行はすかもる下にくゝあな鳴なり

つはくらめ

衣笠前内大臣

かー底本・彰本「く」、B四本ニヨリ改ム。但シB二ニ本、字形「る」ニ近シ。

はー彰本、虫損ニテ字形不分明。

空一彰本「とら」(字形不分明)。○くー彰本「く」トス。○くー彰本文「く」トシ、見セ消チニテ改メテ消チニテ改メテ「く」トス。

ひー彰本「ろ」。○ほー彰本文ニナク、右傍ニ補フ。

三六
ゆふたちの雲ふく風にから国のいししのはめも今やとふらん』三〇ウ

の「彰本ナシ。〇いー彰本本文「わ」トシ、右ニ「いイ」ト朱校。

右*、申出 禁裏御本欲書写之処、歌数多不違于書之、仍加

一見、難題之歌或有一興之歌駮其楚而已、于時*

右「以下三行、底本細字補入。彰本ナシ、高本・黒本・久本、大字。ナホ、奥書全文、松本ナシ。〇于時」底本、コノ下三行末マデ朱ノ縦線ヲ引ク。「大永……」ヘ続クノ意。高本「に時」。

大永丁亥臘天十五、一天兵乱豺狼当路閉

門抄之、待泰平時節可清書者也

国外都督郎*

国一高本・黒本・久本「園」。

〔約三行文空白、下方ニ天明四年八月ノ村井古巖ノ奉納印アリ〕

安永九庚子五月中旬一校了

勤思堂邑井敬義藏

安永一コノ一行、底本朱小書。諸本ナシ。

索引

一、今回翻刻した本文とそこに付した歌番号によって初二句索引と作者索引とを作成し、左に掲げる。

二、初二句索引は、右に翻刻した本文のすべての歌の初二句を採り、それを歴史的仮名遣の五十音順に排列した。

三、作者索引は、本文のすべての歌の作者名を採り、それを慣用語読みとした上、現代仮名遣の五十音順によって排列した。従って

俗人男子は訓読み、僧侶は眞音読みを原則とする。なお、表記されている官位・称号等を括弧に入れて付記した。

初二句索引

あ行							
あかたなの	はなのかれはも	あしかもの	かつくうはけに	あふまての	かたみのうらの	二〇	
あきかけて	つゆやはそむる	あしひきの	やまちさのはな	あまつそら	わかてにおよぶ	一五	
あきかせの	ふきあけのはまの	あたちのの	はらのくろつか	あみのめに	うけたるみつは	一四	
あきたるも	ひたのかげなは	あたちのも	ゆきふりにけり	あらくまも	なれはなれなむ	一五	
あきつしま	くにつやしろの	あつきゆみ	やはすとむけ	あらはれて	かみのものいふ	一五	
あきのたを	みれはよろつの	あつらへは	はなにもかせは	ありとても	またみもしらぬ	三〇	
あきはきは	うつろひぬらし	あなこひし	こやのといてし	いかかして	いけのひしつる	三二	
あきやまの	こはたにのこる	あはれなる	しきみのはなの	いかにして	にほひそめけむ	三〇	
あさとあけて	みれはすすしも	あふことは	いなおほせとりに	いかにせむ	ゑかふいりえの	八	
あさひかけ	あかしのうらの	あふことを	いつとかまたむ	いくかへり	まつのはなをは	一七	
あさまたき	それかあらぬか	あふことを	とふやゆふけの	いくとせの	あきのこよひか	三〇	

きのうみに たひひくあみの
 きひのやま まかねのさやを
 くさのには そてつくみちの
 くさわかき のへもるひとに
 くちなしの はなにはものを
 くものいに ちひきのいしは
 くものうへの とよのあかりに
 くものはて うみのはてをは
 くもはれぬ なかめかしはの
 くもふかく いるやまひとも
 くらぬやま みちのしひしは
 くれてゆく ひかけをさらに
 くれなるに ちしほやそめし
 くれなるの すゑさくはなの
 くらかみの いろはかはらぬ
 けふはみな ゆたちのいての
 けふもまた いちめかもたる
 こかくれも とときそあれけれ
 こきまはる みなとのふねの
 ここのへの さはへのあやめ
 こころのみ うきたのもりの
 こさかゆく つかれのたかの
 こことし ことひのうしの
 ことにいま ふるさとさむき

六八 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

このうちを おもひやいつる
 このくれも またみたれなは
 こひせしと いのれしかみは
 これその はるをむかふる
 さ 行
 さかのやま くもるのはるに
 さきあへぬ のきはうめの
 さくらはな やなきのえたに
 ささなみの おほやまもりの
 ささのやの そてしくほと
 さしなから ゆつのつまくし
 さてもまた なほやうらみむ
 さとひとの のきをならへて
 さよふけて さひしくもあるか
 しけりつつ こふかきやまの
 したをれの るなのふしはら
 しつのめか あさてほすてふ
 しつのをか そとのをたの
 しつはたの あさのうみいと
 しはかこふ ふちのわかそに
 しはをやま しひてはしらし
 しはあひに つりするあまの
 しはかれの ひかたのうらの
 しめのゆき むらさきのなる

二九五 二九四 二九三 二九二 二九一 二九〇 二八九 二八八 二八七 二八六 二八五 二八四 二八三 二八二 二八一 二八〇 二七九 二七八 二七七 二七六 二七五 二七四 二七三 二七二 二七一 二七〇 二六九 二六八 二六七 二六六 二六五 二六四 二六三 二六二 二六一 二六〇 二五九 二五八 二五七 二五六 二五五 二五四 二五三 二五二 二五一 二五〇 二四九 二四八 二四七 二四六 二四五 二四四 二四三 二四二 二四一 二四〇 二三九 二三八 二三七 二三六 二三五 二三四 二三三 二三二 二三一 二三〇 二二九 二二八 二二七 二二六 二二五 二二四 二二三 二二二 二二一 二二〇 二一九 二一八 二一七 二一六 二一五 二一四 二一三 二一二 二一一 二一〇 二〇九 二〇八 二〇七 二〇六 二〇五 二〇四 二〇三 二〇二 二〇一 二〇〇 一九九 一九八 一九七 一九六 一九五 一九四 一九三 一九二 一九一 一九〇 一八九 一八八 一八七 一八六 一八五 一八四 一八三 一八二 一八一 一八〇 一七九 一七八 一七七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九九 九八 九七 九六 九五 九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 六〇 五九 五八 五七 五六 五五 五四 五三 五二 五一 五〇 四九 四八 四七 四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

しもかれの のたのくさねに
 しもかれの るなのささふの
 すててゆく ひとしたふこの
 すへらきの みわそそきます
 すまのあまの あみのひきつな
 すみよしの うらのあみひと
 せこなはに ひきこめらるる
 そかきくの いろのでこらも
 そてにみつ よはのなみたを
 そのかみの みかけのやまの
 そのやまは よそのけふりも
 そまいたに とりところなき
 た 行
 たえずゆく みつのしらいと
 たえにける くめちのはしは
 たかせさす さほのかはらの
 たかやすの みもとははやく
 たきもの のくゆるけふりの
 たくひとは もにすむむしの
 たちさわく ほなみつつきに
 たつねきて おりもそやつす
 たつねては よもきかしまに
 たつのるる いそへのつまま
 たにかはの いはもとしつく

三〇三 三〇二 三〇一 三〇〇 二九九 二九八 二九七 二九六 二九五 二九四 二九三 二九二 二九一 二九〇 二八九 二八八 二八七 二八六 二八五 二八四 二八三 二八二 二八一 二八〇 二七九 二七八 二七七 二七六 二七五 二七四 二七三 二七二 二七一 二七〇 二六九 二六八 二六七 二六六 二六五 二六四 二六三 二六二 二六一 二六〇 二五九 二五八 二五七 二五六 二五五 二五四 二五三 二五二 二五一 二五〇 二四九 二四八 二四七 二四六 二四五 二四四 二四三 二四二 二四一 二四〇 二三九 二三八 二三七 二三六 二三五 二三四 二三三 二三二 二三一 二三〇 二二九 二二八 二二七 二二六 二二五 二二四 二二三 二二二 二二一 二二〇 二一九 二一八 二一七 二一六 二一五 二一四 二一三 二一二 二一一 二一〇 二〇九 二〇八 二〇七 二〇六 二〇五 二〇四 二〇三 二〇二 二〇一 二〇〇 一九九 一九八 一九七 一九六 一九五 一九四 一九三 一九二 一九一 一九〇 一八九 一八八 一八七 一八六 一八五 一八四 一八三 一八二 一八一 一八〇 一七九 一七八 一七七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九九 九八 九七 九六 九五 九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 六〇 五九 五八 五七 五六 五五 五四 五三 五二 五一 五〇 四九 四八 四七 四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

現存和歌六帖（福田）

たまほこの	みちのしはくさ	二九	なかはまの	まさこはかそへ	二八	はるのの	ありすのひなの	二九
たみのとに	あきをさめする	二九	なかめのみ	たつれつれと	二七	はるをやく	ひかりはおなし	二八
ためしあれは	つるのかひこも	二九	なからなる	はしもとてらも	二七	ひたたくみ	そまのみやきに	二九
たれかみむ	みをおくやまに	二九	なつかはや	せたえのみつに	二五	ひとをいかて	おもひわすれむ	二八
たれもみな	なさけあるよに	三〇	なつくれは	おほえのやまの	二五	ひのくれに	おほやかはらを	二八
ちとせふる	ためしをみには	三一	なつやまの	しけみかくれの	二六	ひはりあかる	やまさはみつに	二九
ちはやふる	かみかきやまの	二六	なにことを	おもひいれてか	二九	ふかきよの	たけたかはらの	二七
ちるたひに	もえこかれても	二九	なみわけて	しなぬくすかは	二九	ふきはらふ	かせにたたふ	二六
つかれゆく	おいをもしらす	二〇	にはとりの	みつにうくよと	二六	ふしといふ	ねをはたひらに	二四
つめのうへの	つちにうゑきは	二五	のわきする	のさはのちはら	二四	ふねとむる	あきのいりえの	二六
つゆかかる	をささましりの	二三	のをさむみ	たにもましろに	二五	ふるさとと	なりにしよより	二六
つりのをに	くちらはとめて	二五	は 行		二五	ふるはたの	くはのわかはの	二六
とかりする	をのはきははら	二六	はきのえに	ききのしつくも	二六	ほにいてぬ	なへたにまじる	二七
ときしあれは	すくものをかの	二六	はしたかも	しらふになりぬ	二六	ま 行		二七
ときつかせ	さむくふくらし	二四	はたつもり	つもりしゆきの	二六	まきのほも	こけおふるまで	二七
ときはにて	あへたちはなの	二五	はたやまの	をのへつづきの	二〇	またはよも	はねをならふる	二七
とひもせて	つれなきいろを	二五	はつしもは	おきにけらしな	二〇	またもこむ	はるをそちきる	二七
とまりあらは	うらのともふね	三	はなさかぬ	をりもきてみよ	二五	まつはるる	なけきのもりの	二七
ともすれば	とやかふわしの	四	はふりこか	ころものいろや	二五	まどろまで	こよひもあけぬ	二七
とものうらや	なみちはるかに	二五	はやかほに	やなうちわたす	二五	みかきもる	とのへにたてる	二七
とやまなる	そはのあをしは	二	はらのいけの	いりえのみおち	二五	みくりひく	なみまやいつく	二七
とやまなる	をかのかしはら	二三	はりまなる	しかまにつくる	二五	みさひぬる	ぬまのいりえの	二七
とりかぬる	あさきのみやき	二六	はるされは	ともまとはせる	二六	みすひさに	なりそしにける	二六
な 行								

現存和歌六帖（福田）

をしかふす なつのをふかみ 四
 をしかもは みつにもしつむ 三七
 をやまたに たてるそほつゝ 四
 作者索引
 あ行
 按察（鷹司院） 一四・三五・元
 有長（源）朝臣 一〇九
 家良（衣笠前内大臣、衣笠） 七〇・六・
 二・二六・美・三九・五五・六六・七六・八
 六・八七・八八・九六・一〇〇・一〇三・三
 〇～一六・一六・一七五・一八・一七
 ・三五・三八・三三・四七・六〇・二
 七四・二六・二八・三〇・三六・三六

か行
 覚仁法親王（無品親王覚仁） 三五
 兼氏（源） 三〇・三九
 兼直（下部）宿禰 一〇九・一五・一七・二〇
 ・二六
 兼泰（源） 二〇
 義淳（法師） 三三・三九・三五・三三
 衣笠前内大臣 ↓家良
 御製（後嵯峨院力） 一五・一六
 空眺（法師） 三九

九条前内大臣 ↓基家
 源寂（法師） 二七六
 小宰相（承明門院） 二六・二六・三二
 後隠岐院 ↓御製
 さ行
 前さき ↓ゼン
 定嗣（前中納言） 七・七六
 実氏 ↓前太政大臣
 実伊（権大納言） 二四五
 実経（前撰政左大臣） 三三・九二・七
 尚侍家中納言 三〇
 少将内侍 五
 淨忍（法師） 一九・三三・二七
 俊成女（皇太后官大夫） 三三・三九
 真観 三三・三三・三九・四三・七三
 前撰政左大臣 ↓実経
 前太政大臣（実氏力） 四・九・七・三四
 た行
 隆祐（藤原） 三三・三九・三六・三六・三四・三五・三
 五・三九・三六・三二
 孝行（源） 二五
 忠定（正二位） 二四〇
 忠基 二五
 為家（前大納言） 一（本文参照）二・五・六

一七・二四・七・三・三三・三五・
 七・六・四・四・四九・五〇・五・五
 ・五五・六〇・六・六三・六四・六五・六
 七〇・七四・八〇・八・八三・八九・九
 四・九七・一〇五・一〇六・一一・一二・一四・
 一五・一六・一六・一七・一八・一〇・一
 一九・一九・一九・一九・一九・一
 九六・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇六
 ・一一・一二・一三・一三・一三・一四・一
 四・一五・一五・一六・一六・一六・一七
 ・一七・一七・一七・一七・一七・一七
 一九・二〇・二〇
 為氏（藤原）朝臣 七六・一〇六・二九・三〇七
 為継（朝臣） 二〇三
 為頼（藤原） 四六
 中納言（尚侍家） ↓尚侍家中納言
 経雅（源）朝臣 二二
 経光（前中納言） 二六七
 俊成女 ↓シュンゼイノムスメ
 知家（正三位） 八・三〇・三四・四・四七・六九
 ・八四・九・九・九・一〇七・二九・一
 三六・一六〇・一六六・七〇・一七九・一八
 ・一八四・一八九・一九二・二〇五・二〇六・二
 〇八・二〇九・二二二・二二三・二三四・二三四

現存和歌六帖（福田）

な 行

・三五・三六・二五〇・三五・三五六・二
七〇・二八一・二八九・九四・三三

尚待家中納言 ↓ショウシケチュウナゴ

ン

仲業（源） 一六・三六五

成茂（祝部） 二

入郎三品親王 二二

入道前摂政（道家カ） 七・一〇三・一一三・二六
・二六三・一六四

信実（朝臣） 三・一九・三〇・四〇・四六・五七・七三
・七五・八五・一〇一・一一五・一二八・一三九

一四八・一六六・一六七・一六九・一七・

一七〇・一七六・一八三・一八七・二〇三・二二

三・三七・二九・三六・三三・三九

a・二四三・二五五・二五六・二六・二六四

・三六九・三六四・二六・二九一・二九三・二

九五・三〇五・三〇九・三二〇・三二四

九五

則広（橘）

ま 行

道家 ↓入道前摂政

明珍（法師） 二〇四・三二五

無品親王覚仁↓覚仁法親王

基家（九条前内大臣） 七・一七・四六・三〇〇

基氏（右兵衛督） 一五・三〇七

師光 三三

や 行

行家（藤原ノ朝臣） 一〇四・七七五

行能（従三位） 八二・二九七

ら 行

隆専（法師） 二四

蓮信（法師） 二四九